

**福島第一原子力発電所3号機原子炉建屋
燃料取り出し用カバー 設置
現場確認結果について**

平成29年7月31日
福島第一原子力規制事務所

1. 目的

3号機原子炉建屋は、水素爆発によりオペレーションフロア(以下、オペフロという)上及び使用済燃料プール(以下、SFP という)内には多くのガレキが散乱していたが、平成25年よりオペフロ上及びSFP内の大型ガレキの撤去作業を開始し、無人重機によりオペフロ上の除染や遮へい体を設置するなど、作業員の被ばく低減を図っている。

燃料取り出し用カバーについては、東西方向にオペフロを跨ぐ門型架構及びその上部に設置するかまぼこ形のドーム屋根で構成されており、使用済燃料取り出し作業における放射性物質の飛散防止のために設置される。

本日(7/31)早朝から、当該燃料取り出し用カバーのドーム屋根の一部がクローラクレーンによって吊り上げられ、3号機原子炉建屋オペフロに設置されることから、現場確認を行った。

2. 確認日時、場所及び確認者

日時: 平成29年7月31日(月) 午前6時30分～7時40分

場所: 福島第一原子力発電所2号機原子炉建屋西側 海拔35m盤

確認者: 福島第一原子力規制事務所 久我原子力運転検査官、坂本原子力運転検査官

3. 現場確認結果

先般6月27日に1F構内物揚げ場に搬入された燃料取り出し用カバーのドーム屋根北側片※1基が、本日7月31日午前6時40分に500tクローラクレーンによって吊り上げられ、午前7時30分に3号機原子炉建屋オペフロの燃料交換機ガーダ西端のスライド架台に固定された。今回の吊り上げにあたり、ドーム屋根は事前に3号機原子炉建屋西側(海拔10m盤)までスーパーキャリア(台車)で構内輸送され、仮置きされていた。

ドーム屋根北側片は1/4の円形状であり、スライド架台上で対面となる南側片1基の頂部と接合し、半円状としたのちに、スライド架台を東側の所定位置に走行移動させ、脚部を門型架構にボルト締め等によって固定されることになる。

ドーム屋根南側片は、本日、ドーム屋根北側片の吊り上げの最中に1F構内東側港湾物揚げ場から3号機原子炉建屋西側まで構内輸送され、仮置きされた。8月2日の早朝に今回と同様の手順でスライド架台に設置する予定である。

なお、当該作業員のオペフロ上の作業時間は約50～140分/班・日であり、計画線量は、0.42Svとしている。

※ドーム屋根は、2基で幅22.74m×高さ17.5m×奥行5.6mで重量は78トンあり、ガリバリウム鋼板(防錆性に優れ、軽量、高強度)、鉄骨材等で構成されている。



【写真1】吊り上げ前のカバー(7/30撮影)



【写真2】ドーム屋根南側片 構内輸送



【写真3】ドーム屋根吊り上げ①



【写真4】ドーム屋根吊り上げ②



【写真5】ドーム屋根吊り上げ③



【写真6】ドーム屋根北側片設置